最近の中国繊維工業の概況

中 島 勝*
呂 仕 元**
馮 丹 宇***

本報告は50年代から90年代までの40年間の中国の繊維工業についての資料の分析である。しかし前の30年間（50年代～80年代）の資料は保存状態が悪く、完全ではない。そして、その30年間の概況を分析するのは背景的に複雑である。なぜならば、この30年間、中国で政治的な動乱があり、経済的な面でも不安定であった。しかし、この30年間で、繊維工業は緩慢ながらも変化し、生産増加の傾向はみられた。ここで、入手した資料から、最近10年間の中国の繊維工業の情勢をまとめて分析を試みる。

1. 中国紡織業の発展の情勢

紡織業の総生産額をみると、1980年は682億元（日本円で1.45兆円位）で、全国工業総生産額（4,992億元）の13.7%を占めていた。1990年紡織業の総生産

額は1,668億元で、全国工業総生産額（1兆3,747億元）の12.1%を占めていた。10年間で、紡織業の総生産額が全国工業総生産額に占める割合は1.6%下がっているが、その総生産額の絶対値は前より3倍近くになり、急速な発展の情勢が見られる。また、各繊維の生産の設備の推移から見ればこの10年間に大幅の増加が見られる（表5）。

2. 化学繊維の発展、天然繊維の増産

この10年間で、化学繊維製品は著しく発展した。1990年の生産額は（254億元）1980年（54億元）の約5倍になっている。アパレル産業も大きな発展を続け、1990年は1980年の3倍になった（表1）。これは開放経済下のこの10年間に消費の割合が大きくなったからである（表7）。また、化学繊維の1991年の生

表1 GNP, GNIおよびGNP, GIN／人 (億元)

年	1962	1970	1980	1990	1991
人口 (億)	6.7295	8.2992	9.8705	11.4333	
GNP			4470.0	17400.0	
GNP／人 (元／人)			456.0	1533.0	
GNI	924.0	1926.0	3688.0	14300.0	
GNI／人 (元／人)	139.0	235.0	376.0	1260.0	
中国 繊維 産業 の 生産 額					
年	1962	1970	1980	1990	1991
全国工業総生産額	343.0	2421.0	4992.0	13747.0	
テキスタイル (紡織)	94.0	316.0	682.0	1668.0	2175.8
同上比率	27.4	13.1	13.7	12.1	
化学繊維	1.0	8.0	54.0	254.0	
アパレル (衣料)	32.0		135.0	390.0	

「中国統計年鑑1991」より

M. Nakajima*, Lu Shiyuan**, Feng Danyu***, A General Situation of Nowaday in Chinese Textile Industry, *京都工芸繊維大学繊維学部, Kyoto University of Technology, **無錫輕工学院, Wuxi Institute of Light Industry, ***京都工芸繊維大学留学生, Hangzhon Zhejiang Institute of Silk Textile Technology

表2 紡織工業の税金と利潤総額 [億元]

年	1975	1980	1985	1990
税金の総額	80.0	157.4	139.4	95.9
化学繊維	2.0	9.7	8.9	21.4
綿加工織物	53.8	106.2	71.4	45.7
綿ニット	7.0	15.1	13.0	1.9
羊毛	6.9	11.9	21.8	5.0
麻	1.3	2.9	4.0	-2.4
絹	3.6	6.6	11.9	14.8
紡織機械		3.8	5.8	7.8
工 賃				
年	1975	1980	1985	1990
工賃総額(億/年)			1	119.5768
平均工賃(元/年・人)				2212

中国紡織工業出版社「中国紡織年鑑」1991.より

表4 天然繊維 (万トン)

年	1952	1957	1965	1978	1989	1990
綿	130.35	164.00	209.35	216.70	378.80	450.77
リネン	30.55	30.05	27.90	108.8	66.02	72.61
ラミー	4.05	5.25	2.95	2.60	15.45	8.91
蘭	6.20	6.80	6.65	17.75	43.38	48.02
羊毛	3.36	4.30	7.49	13.82	23.73	18.89
ヤギ	0.13	0.04	0.80	0.76	1.62	1.10
カシミヤ	0.21	0.23	0.41	0.30	0.54	0.50

中国紡織工業出版社「中国紡織工業年鑑1990」より

産実績は表3を参照されたい。

天然繊維の綿、羊毛、絹、麻などは気候などに左右されやすく変動が激しい。一部の天然繊維の生産高があまり増えない原因としては、化学繊維の生産コストが低下したこと、徐々に化学繊維に代替されてきたことなどによる。しかし、同じ天然繊維でも綿や絹の生産は年々発展の傾向がみられる(表4)。特に絹は価格が最近の10年間毎年上昇してきたので生産を促してきた。加えて、重要なことは絹が中国の民族産業であり、文化の発展の重要なシンボルであるということである。「シルクの国」という名声を保持することが中国の各時代の責務でもある。

表3 化学繊維の生産量 (トン)

地 区	1970	1980	1990
全 国 総 計	100,913	450,331	1,648,172
北 京 市	22,893	25,947	39,844
上 海 市	20,085	151,548	251,108
遼 寧 省	12,775	59,461	155,920
河 南 省	8,978	13,199	63,663
河 北 省	6,845	9,901	25,911
江 蘇 省	5,172	32,603	407,635
吉 林 省	5,105	11,750	30,295
浙 江 省	3,577	13,139	85,318
広 東 省	2,477	5390	115,775
甘 肅 省	4,944	11,817	13,420
黒 龍 江 省	1,665	17,989	96,396
山 東 省	1,493	6,821	40,771
天 津 市	1,202	8,205	74,643
福 建 省	1,020	13,506	31,306
四 川 省	803	15,197	38,389
雲 南 省	501	1,008	5,114
湖 北 省	128	8,477	24,835
広 西 省	117	993	13,717
山 西 省	81	3,642	19,838
内 蒙 古	50	1,526	7,406
安 徽 省		5,514	12,329
潮 南 省		14,685	35,118
海 南 省			15,231
寧夏回族自治区			3,355
新疆ウイグル自治区			2,762
貴 州 省		3,124	3,078
陝 西 省		1,559	14,996
江 西 省	1,001	13,332	19,999

文津出版社「中国繊維手冊」1991.より

3. 紡織関係の郷鎮企業の発展

80年代中国の農業経済の改革は「郷鎮企業」という新しい企業の誕生と発展を促した。なかでも紡織関係の郷鎮企業は著しく発展した。特に長江三角洲としての上海経済区の範囲(上海に近く、江蘇省、

表 5 繊維生産の設備

	UNIT	1952	1957	1965	1978	1989	1990
綿紡績	万 鍾	561.00	755.60	980.10	1,561.92	3,565.59	3,881.95
綿織機	万 台		42.14	30.92	49.65	83.82	86.04
毛紡績	万 鍾	12.31	15.62	27.98	47.81	252.27	265.87
毛織機	千 台	1.909	1.830	4.040	7.120	32.602	33.556
袋織機	台	1,042	1,418	1,821	5,725	15,914	16,139
麻紡績	万 鍾	4.80	5.40	7.65	15.00	84.89	88.98
繰糸機	万 緒	16.72	20.56	26.52	72.23	182.03	200.00
絹織機	万 台	4.42	3.09	2.67	4.54	17.48	17.96
化合繊維生産	万トン		0.03	6.70	38.10	188.27	202.45
化 織	万トン		0.03	5.10	13.38	21.04	21.73
合 織	万トン			1.60	24.72	167.23	180.72
綿染色加工	億 m ²				68.66	124.11	129.40

中国国家统计局「紡織工業主要專業設備」p.309.より

浙江省など)で大きな発展を遂げた。これにはいくつかの原因がある。第1に、この辺は昔ながらに紡織の産地として有名であり、紡織技術は長い歴史を持っている。第2は上海に近く、世界的なファッション情報の入手が早く、流行の潮流を常に維持できたからである。この上海経済区の郷鎮企業の発展に従って全国的にも波及した。表3, 6から分かるように、郷鎮企業の経済は農村の経済に大きな発展を促した。特に農業国の中国において、農村経済の発展は、国力の強化、社会の安定に重要な役割を果たしてきた。中国の最近10年の経済改革の上で郷鎮企業もひとつの重要な改革である。これはいわゆる「市場経済路線」の拡大を進めるため重要な試みであると考えられる。

4. 繊維の輸出

1990年の繊維輸出額は194.90億ドルで、1980年の49.53億ドルの4倍と急速な伸びを示している。繊維製品の中で特に衣類の輸出は大きな発展を遂げた。これは中国が徐々に付加価値を高めた繊維製品に重点を移してきたからである。

5. 今後の繊維工業の方向

今後の中国繊維工業の発展方向は国際的な競争や国内の経済情勢と国民の需要動向によって定まらるう。

- (1)綿紡績, 毛紡績, 化学繊維紡績の生産能力の減少
 - a. 1992年から1995年にかけて、毎年100万鍾ずつ減少する。

表 6 郷鎮企業の紡織品生産の概況

	年	1986	1987	1989	1990
企 業 数	総計	25,767	30,044	31,287	29,608
	綿紡織	6,867	8,488	10,223	10,485
	毛紡織	2,380	2,615	3,428	3,115
	メリヤス	7,333	8,317	8,242	7,397
	化学繊維	4.98	563	596	547
従 業 員 数 (万人)	総計	254.23	290.15	309.98	309.97
	綿紡織	78.94	95.25	122.9	127.35
	毛紡織	44.47	61.91	103.98	101.2
	メリヤス	60.27	63.35	62.39	58.88
	化学繊維	4.04	4.75	5.07	5.57
生 産 額 (億人)	総計	259.57	355.79	539.84	631.49
	綿紡織	84.96	116.78	207.86	253.26
	毛紡織	44.78	61.91	103.98	101.2
	メリヤス	39.82	52.75	88.12	91.54
	化学繊維	6.21	9.84	15.39	21.29

中国国家统计局「紡織工業主要專業設備」p.329-330.より

表7 社会消費構成の概況 (%)

年	1955	1960	1970	1980	1985	1990
食 品	55.6	48.2	53.4	51.2	52.7	55.4
衣 服	19.8	21.7	23.4	23.0	18.9	16.3
日 用 品	13.9	15.1	10.5	12.9	13.9	13.7
文 教 品	2.7	3.6	2.5	4.1	7.7	6.1
書籍、雑誌	1.0	1.1	0.4	1.3	1.2	1.5
薬 品	3.1	6.1	5.0	3.7	2.8	4.0
燃 料	3.0	4.2	4.8	3.8	2.8	3.0

「中国統計年鑑1990」より

表8 中国繊維の輸出 (百万ドル)

年	輸出 総額 (A)	繊維品の輸出				B/A %
		原料	紡織品	衣類	総額 (B)	
1960	1,856			249	656	35.3
1965	2,218	75	295	190	560	25.3
1970	2,260	100	340	155	596	26.4
1975	7,264	245	1,033	353	1,631	22.5
1980	18,272	544	2,756	1,653	4,953	27.1
1985	27,360	1,145	3,243	2,050	6,438	23.5
1990	62,068	1,094	6,998	6,848	19,490	24.3
1991		578	7,734	8,998		

文津出版社「中国繊維手冊」1991.より

b. 1991年から1995年までの5年間に、老朽設備1,000万鍾を更新する.

(2)市場経済による生産方針

輸出品はさらに品質を上げて加工する. 現在, 綿製品のうち10%がコマー通しであるが, 1995年はこれを15~20%にする. また, 織布の仕上加工は50%に, 二次製品化率現在の50%から70%に引き上げ, 市場経済の方針によって全国の大, 中, 小型の繊維企業の管理や運営体制や機能を強化する.

(3)全方位で繊維産業を重視

綿以外の繊維, 例えば麻繊維やカシミヤの増産, 差別化繊維や機能繊維などの開発を進める. また, アパレル産業を重視するとともにインテリア分野にも積極的に参入する. そして, 産業用テキスタイルの生産比率を15%に高める.

(4)繊維生産の現代化を目指し

国際化, 情報化, システム化を推進するため, ハイテク技術を利用して, 老朽化した繊維産業や生産設備を改造, 更新する. 大幅にコンピュータの導入を進め, 繊維教育, 技術の研究をもっと重視する. そして, 生産の重点は繊維製品の高付加価値化に向かっている.

中島 勝 (なかじままさる)
昭和51年京都工芸繊維大学奉職, 現在までの主研究として自動織機の経済的最適化コンピュータアルゴリズムを設計・作成, 繊維機械の歯車切削用ホブの最適在庫計画システムの構築, 縫製工程のラインバランスの自動編成の考案, アパレルのCIM化方策の手順作成, 繊維・

高分子を利用した機器・設備の設計・試作・評価, テキスタイルデザインの工学的価値など. これらは繊維機械学会論文集, 日本機械学会論文集, アメ리카機械学会論文集などに発表した. (京都工芸繊維大学繊維学部, 〒606 京都市左京区松ヶ崎御所海道町, TEL. 075-724-7842, FAX. 075-724-7710)

呂 仕 元 (Lu Shiyuan)
中国紡織大学卒, 南通紡織大学などを経て, 現在無錫輕工学院の紡織分院長.

馮 丹 宇 (Feng Danyu)
昭和59年中国杭州浙江絲綢工学院卒, 約6年間シルク織物のデザインを経験, 平成3年9月から京都工芸繊維大学留学, テキスタイルデザインを専攻.